

令和8年度 第1回 長野市歴史的風致維持向上協議会 会議記録(概要)

日時：令和8年7月31日(金)

午前10時から正午

場所：長野市役所第一庁舎7階

第1・2委員会室

●出席委員 15名

高見澤委員、梅干野委員、久米委員、池森委員、石黒委員、山本委員、大日方委員、清水委員、眞島委員、極意委員、古畑委員、秋山委員、中沢委員、石坂委員、桑原委員

1 開会

- ・会議は公開で開催し、傍聴者は無し
- ・委員15名全員の出席により、定足数を満たしたため会議は成立

2 事務局挨拶

- ・長野市まちづくり課長挨拶

3 新任委員の委嘱及び紹介

4 会長及び職務代理者の選出

- ・会長に 高見澤秀茂 委員、職務代理者に 久米えみ 委員を選出

5 諮問

- ・長野市長（長野市まちづくり課長が代理）から高見澤会長あてに諮問

6 協議

(1)長野市歴史的風致維持向上計画 第2期の概要について

- ・概要の説明

(2)歴まち計画の進行管理・評価及び計画の変更について

- ・諮問内容の説明

(3)令和8年度の歴まち計画に係る事業について

- ①歴史的建造物等の保存に関する事業 → 意見・質問なし
- ②地域に残る伝統と生業の継承に関する事業 → 意見・質問なし
- ③歴史まちなみと周辺環境の整備に関する事業

【質疑応答】

委員：(3)－3旧松代駅跡地周辺環境整備事業について伺いたい。この事業は、駅舎位置の移動や変更はないのか。

市：場所については、地元から道路築造の要望もあり、まちづくりに合わせて、現在の位置から東に数メートル移動する形で予定している。

委員：一度解体するのか、それとも曳家か。

市：様々な方法を検討したが、曳家だと躯体がもたないようなので、解体して再建築する方向が良いのではないかと考えている。

- 委員：（３）－４北国街道松代道周辺文化財等周遊道路整備事業について、北国街道の線路敷を自転車道路に整備する事業の結束節点が旧松代駅だったと思う。事業は別であるが、旧松代駅舎を移動するということは、その位置からずれるという認識で良いか。
- 市：千曲川新道全体の計画として、線路敷はできる限り自転車道路として整備を進めている。しかし、トンネルや鉄橋は建築基準等の関係でコストがかかる為、それらを避けた形で整備を進めている。旧駅舎についても迂回する形で計画している。
- 委員：交通政策局として、地元の方や観光客が自転車で回遊して屋代・松代地域を楽しめるようにするような事業計画はあるか。
- 市：そもそも屋代須坂線跡地の活用について地元と意見交換をする中で『自転車道』の整備を計画した。若穂や松代地区には遠くから自転車で通学する児童生徒がいて、通学路となる部分を優先的に自転車道の整備を進めてきた。まだ繋がっていない自転車道の整備を次の優先順位として整備することになるが、長野市全体の自転車利用促進計画の中に位置づけることで、地域全体を楽しめるようなサイクルロードを計画しているところである。
- 委員：旧松代駅舎については民間事業者の公募をかけているようだが、そういったものと絡めて進めてほしい。せっかく手を挙げた民間事業が撤退の道を辿らないように、拠点となるものを絡めて事業を計画してほしい。
- 委員：松代の大室古墳群のアクセス道路整備事業について。事業終了予定(令和９年度末)まで１年半しかないが、大型バスが通行できる道路整備は完了するのか。
- 市：令和９年度末の完了は不可能である。想定外の軟弱地盤対策が生じたことで、土質調査と検討を行っている。いつとは言えないが、完了予定は数年先になると思われる。

④歴史的風致を生かした観光振興、地域活性化に関する事業

【質疑応答】

- 委員：（４）－１歴史的資源活用コーディネーター派遣事業について伺いたい。派遣されているコーディネーターは毎年変えているのか。
- 市：地元の意見を聞いて必要な方を派遣するという事業なので、ニーズに応じてその時必要な方を派遣している。
- 委員：参加者は毎回同じメンバーか。
- 市：まちづくり協議会や地元の団体になるので、要望する相手先によって変わる。
- 委員：歴史的な町並みを有する地域、特に鬼無里・松代地区の観光客不足は深刻である。この事業が観光客誘致に繋がっているようには感じないし、地域住民の考え方も変化しているようには見えない。コーディネーターと勉強することで住民主体のまちづくりを行う支援プログラムのはずだ。どんな成果が出たのか検証をして、中身の見直しをしていく必要がある。
- （４）－３公民館・交流センターでの歴史講座事業について、公民館・交流センターでの歴史講座事業について。写真を見るかぎり高齢者が参加者として多い。悪い訳ではないが、同様の講座を子供向けにできないか。今後自分たちが守り育てていく長野市の宝について子どもも交えたスタイルに変えることを検討してほしい。
- （４）－４松代歴史文化の発信・誘客事業について、NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会（以下：夢空間）はとても大事な活動をしているが、メンバーが高齢化している。新たなコーディネーターの育成も進んでいないので、若返りに向けた事業ができないかと思う。
- 市：松代歴史文化の発信・誘客事業について。確かに夢空間単体で見れば、高齢化、担い手不足という現状だが、松代には文化財ボランティアの会等他の団体もいくつかある。信州松代観

光協会と夢空間の連携不足という面もある。今ある団体や事業を繋ぐことで後継者を育てていくような動きにしていきたい。

委員：助成は夢空間にしているのか。

市：補助金は長野市から観光協会へ一括受渡され、観光協会の裁量で各団体へ分配される。今年も夢空間へは285万円の助成が行われている。観光協会からは、夢空間と松代藩文武学校旗争奪中学校選抜剣道大会実行委員会、エコール・ド・まつしろ倶楽部の3団体に分配されている。文化財ボランティアの会は文化財課から補助が出ている。

委員：先ほど連携が取れていないとか説明があったが、とても大事な課題である。その繋がりや、協力体制を作ることによって新たな若手の育成に繋げていく方法を検討してほしい。

市：公民館・交流センターでの歴史講座事業について。公民館交流センターでは、生涯学習推進計画に基づき、20項目の事業テーマに沿った講座を実施している。休日や夏休みに合わせて、小中学生を対象にした講座も開催しているが、テーマが多岐にわたる為、歴史だけをピックアップして開催することは難しい。保護者同伴になること、市バスの利用等状況も含めて講座の実施について検討していきたい。

委員：若者の定住化は市としても大きな問題である。学校卒業後長野へ戻ってくる若者が増えるように、地域の魅力を伝えていくことは大切である。

委員：長野市、特に中山間地域で人口減少がひどい状況になってきている。鬼無里地域の伝統的祭礼もコミュニティの維持が危ぶまれるならば、ここで手を打たなければ、歴史的風致の消失に繋がる。鬼無里の現状を別の委員に伺いたい。

委員：現状として、鬼無里神社の祭礼と白髭神社の祭礼と諏訪神社の御柱は、人口的にあと5年は存続できる。鬼無里神社の屋台曳行に関しては、かつては鬼無里神社の氏子しか触れない祭りだったが、現在の屋台曳行は参加者自由になっているので、鬼無里の学校を卒業した子供たちが、祭りのある5月3日にだけ、参加するために帰ってくる。屋台曳行は地元で守ろうという意識が強いと感じる。白髭神社の祭礼も、氏子数が多いお宮なので問題ない。諏訪神社の御柱は毎年あることではないので、地元の方達も心配している。

（4）－10 歴史まちづくりカード活用事業にもあるが、歴史的風致に関して広めて欲しいと思っている。広め方として先ほどの派遣事業も一つだが、地元の要請を待つのではなく、こちらから行くような形になると良い。観光に関しては、鬼無里はギリ貧状態である。

委員：観光に関してもコミュニティの維持に関しても喫緊の課題だと感じるが、それに対してPR事業や歴まちカードの効果にもっと危機感を持って臨んでほしい。今回の歴史的風致維持向上計画第二期の練り直しにあたって、人口減少、少子高齢化、世代交代による担い手の確保育成という項目が掲載されているだけで、新たな事業計画がない。本気で取り組む姿勢が見えない。本腰を入れて検討してほしい。

市：計画をただ眺めて、進捗管理すれば良いわけではないことは我々も認識をしている。PDCAを繰り返して各課と連携して取り組んでいきたい。

委員：担い手不足、人口減少等の課題を抱えている『歴史的風致維持向上』の会として、この空き家バンク事業は、古民家等を貸したい人と借りたい人を繋ぐだけの事業で良いのかと思う。

委員：先ほどのコミュニティの話と大きく関わってくる。その地域の歴史や文化を伝える建物や文化遺産というのは、適切に手入れをしないとその価値が損なわれてしまう。空き家バンク事業で、古民家も比較的新しい建物も一律の「空き家」として扱ってしまうと、歴史的風致の低減につながる恐れがある。適切に手入れしていける人材とどのように結び付けるかをセットで検討していく必要がある。

委員：建物と人を結ぶ中間に、専門家が必要だと思う。地域で言うと鬼無里地区・松代地区・善光寺周辺の空き家バンクに連絡があった場合は、専門家に相談員として風致維持向上の一助をしてもらえる仕組みが必要。

市：空き家バンク事業は、長野県宅地建物取引業協会と協定を結び、空き家の仲介や契約にご協力いただいている。ご指摘の通り、安全な空き家の取引、歴史的価値を有する空き家の利活用については課題を抱えている。今後専門家の皆様を交えた検討を含めて考えていきたい。

委員：空き家に関して別の視点から意見申し上げる。定量的評価基準として重点区域内の登録件数を年度末に評価しているが、登録件数だけでなく、成約件数やその割合等も評価基準に追加したらどうか。

市：長野市全体の空き家バンクの登録に対する成約率は、現在 70%を超えている。ただし、重点地域では登録の件数が少ない為、成約も少ない。重点地域の利活用についても課題として捉えている。

委員：現在、松代地区は文化庁による文化的景観の選定を目指している。各武家屋敷の池が泉水路で繋がっている造りが広範囲に現存している地域は全国でも松代地区しかない。長野県では、姨捨の棚田、飯山の小菅地区の 2 カ所が選定を受けていて、松代が 3 番目の選定を受けたいと勉強会を行いながら、実際に泉水路の清掃等を通して保全維持の手助けをしている。こうした活動で建物だけでなく町全体の風情を残していきたいと思っている。

委員：戸隠の現状を話したい。重要建造物群保存地区に指定されたことで観光客が増えた。車やバスによる渋滞や、トイレの問題もあるが、社会的実験等も計画しており、環境整備を順次進めていきたいと思っている。戸隠にも特有の空き家問題がある。この協議会のような場所で勉強させて頂くことで、改めて環境整備は大事だと実感している。

⑤ 歴史的文化の調査研究に関する事業

【質疑応答】

委員：（５）－１松代町文化財保存活用推進事業について。松代文化施設活用ビジョン策定支援事業の公募型プロポーザルで事業計画を立てる会社が決定したが、文化財ボランティアの育成や活動支援、市民ワークショップの開催も既存団体と連携して、この会社が行うということで良いか。

市：今回計画に記載されているボランティア関係の事業は、松代文化施設独自に文化財ボランティアの補助金や事業支援をしているものである。

事業概要後段の「また、松代地区における～」からは、活用ビジョン策定としてコンサルタントを入れながら、松代全 12 施設の将来的な活用ビジョンを策定している。当然他団体や地元とも連携して進めなければならない部分もあるので、市民ワークショップの検討はしているが、今回の委託の中には含まれていない。随時、地元の意見を聞く場を設けながら進めたいと考えている。

委員：今年 2 月に国交省から『景観・歴まち 2.0』が発表され、今後歴まち計画自体大きく変わっていくことが想定される。人口減少や、歴史的風致の維持についても、現代の状況に寄り添った提言がまとめられている。ぜひ部署を横断的に、積極的に取り組んでいただきたい。

7 閉 会

長野市文化財課長挨拶